

2014年度 後期		リフレクションペーパー					
学科名	生物環境化学科						
科目名	有機合成化学						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	3年次後期		
必修・選択の別	選択科目(バイオサイエンスコース) / 選択科目(食品生物資源コース) / 選択科目(エネルギー・環境コース)						
担当者	松本幸三						
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> 各種炭素骨格構築反応の反応式を描ける。 各種酸化還元反応の反応式を描ける。 反応にあった適切な保護基、脱離基を選択できる。 						
日程と内容	<p>9/15 : 授業の進め方と概要、成績評価法、炭素-炭素結合をつくる方法。 9/22 : アルドール型の反応。古典的なアルドール反応とエノラートの発生。 9/29 : Wittig型の反応。イリドの反応。 10/6 : 有機金属試薬を用いた反応。Li, Mg, Zn。 10/20 : 有機金属試薬を用いた反応。Al, B, Si。 10/27 : 遷移金属錯体を用いた反応。Suzukiカップリング、Negishiカップリング。 11/10 : 第1回から第6回までの内容の演習。 11/17 : Diels-Alder型の反応。Diels - Alder反応、Cope転位、Claisen転位。 11/24 : 環化反応。Baldwin則、アニオン環化、カチオン環化、ラジカル環化。 12/1 : メタセシス反応。開環メタセシス。閉環メタセシス。クロスメタセシス。 12/8 : 酸化反応。アルコールの酸化。C=C二重結合の酸化。 12/15 : 還元反応。NaBH₄, LiAlH₄, DIBAL - H還元、カルボニル還元立体選択性。 12/22 : 保護基。ヒドロキシル基、カルボニル基、カルボン酸、アミノ基の保護、脱保護。 12/23 : その他の有用な合成反応。Gabriel反応。Mitsunobu反応。DCC縮合。 1/19 : 第8回から第14回までの内容の演習。 1/26 : 定期試験</p>						
成績評価基準	定期試験	60%	実技				
	臨時試験		部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題		計				
	演習	40%		100%			
授業到達目標の達成度	<ul style="list-style-type: none"> 各種炭素骨格構築反応の反応式を描ける。:90%達成した。 各種酸化還元反応の反応式を描ける。:70%達成した。 反応にあった適切な保護基、脱離基を選択できる。:80%達成した。 						
反省点	基礎的な部分で十分に理解させられないところがあった。もう少し導入的な話題にも言及できれば良くなったと感じた。						
来年度の計画	興味付け、導入的な話題を多く取り入れ、基礎的な部分の解説にもう少し時間をさいて講義したい。						
授業評価アンケートに対するコメント	10点総合評価で平均8.7点はよい評価点であったと受け止めている。講義内容は概ね理解してもらえたようだが、有機合成の学問をより身近に感じてもらったり、その必要性を実感してもらえる内容の講義ができればなお一層充実した講義になったように感じている。						
履修登録者数	17名	定期試験 受験者数	15名	合格者数	14名	合格率	93%